

2014年3月発行「論文作成ABC：うまいケースレポート作成のコツ」73頁 表6に下記の誤りがありました。深くお詫びしてここに訂正いたします。

記

誤

表6 同じ表現が登場する場所一覧

1. 「**既知症状**」(known) が書いてあるのは、
 - ・ Abstract の第 1 行
 - ・ Introduction の最初のほう (多くは第 1 行)
2. 「**A なのか?**」「**B なのか?**」(unknown = problem = question) が書いてあるのは、
 - ・ Abstract の「**既知症状**」の後(注)
 - ・ Introduction の最後のほう
3. 「**A である**」「**B である**」(answer) が書いてあるのは、
 - ・ Abstract の最後から 2 番目の行
 - ・ Discussion の第 1 段落
 - ・ 「A である」は Discussion 第 2 段落の第 1 行にも
 - ・ 「B である」は Discussion 第 3 段落の第 1 行にも
 - ・ Discussion の最後の段落の第 1 行目
4. 価値判断「**こんな風に臨床に有用だ**」(含意, 推察, 応用, 臨床的有用性) が書いてあるのは、
 - ・ Abstract の最後の行(わずかだけタッチする)
 - ・ **Introduction** の一番最後の行

(注) 「B なのか?」は例文では Abstract 第 1 行には示していないので色を付けていない。それは、この例文では、B が「なんちゃって新規」であり、unknown = problem と正面へ押し出すのがはばかれたから。B が「なんちゃって新規」ではなく「真に新規」(例えば帝王切開後でなく経膈分娩後に起こっており、原則 1 からも逸脱している、など)ならば Abstract に必ず書く。A も B も「真に」新規ならば A と B とは両者とも unknown = problem として同等に扱うべきである。が、例文では B = color Doppler 有用? は「真に新規」なわけではなく「なんちゃって新規」なので Abstract 第 1 行からは落とす。B が「なんちゃって新規」であると承知の上で、あえて明示したいなら「color Doppler がマス形成動脈瘤の診断にも有用かについてデータはない= unknown = problem」などと書いておけばよい。さて、B が「なんちゃって新規か?」「真に新規か?」に応じて Abstract へ出したり引込めたり、と、暗記までする必要はない。Abstract には重要なことだけを書くのだから、「なんちゃって」は非常に重要とまではいえない、と判断したから Abstract 第 1 行からは落とすだけのこと。「なんちゃって」でも、臨床に有用で、「なんちゃって」に気づいたこと自体が「新規」だと踏んだなら、もちろん Abstract へ堂々と出してよい。重要ならば第 1 行の unknown = problem へ堂々と出し、そうでないならば出さないでよく、という単純な事柄だ。ここでは、当該事項への著者の見定め力に依存する。B を Abstract 第 1 行に登場させるべきかどうか、current writer はそこを一瞬で判断する。初心のうちは「一瞬では」判断できないだろうが、そのように考えてみるように習慣づけることが上達への早道だ。

正

表6 同じ表現が登場する場所一覧

1. 「**既知症状**」(known) が書いてあるのは、
 - ・ Abstract の第 1 行
 - ・ Introduction の最初のほう (多くは第 1 行)
2. 「**A なのか?**」「**B なのか?**」(unknown = problem = question) が書いてあるのは、
 - ・ Abstract の「**既知症状**」の後(注)
 - ・ Introduction の最後のほう
3. 「**A である**」「**B である**」(answer) が書いてあるのは、
 - ・ Abstract の最後から 2 番目の行
 - ・ Discussion の第 1 段落
 - ・ 「A である」は Discussion 第 2 段落の第 1 行にも
 - ・ 「B である」は Discussion 第 3 段落の第 1 行にも
 - ・ Discussion の最後の段落の第 1 行目
4. 価値判断「**こんな風に臨床に有用だ**」(含意, 推察, 応用, 臨床的有用性) が書いてあるのは、
 - ・ Abstract の最後の行(わずかだけタッチする)
 - ・ **Discussion** の一番最後の行

(注) 「B なのか?」は例文では Abstract 第 1 行には示していないので色を付けていない。それは、この例文では、B が「なんちゃって新規」であり、unknown = problem と正面へ押し出すのがはばかれたから。B が「なんちゃって新規」ではなく「真に新規」(例えば帝王切開後でなく経膈分娩後に起こっており、原則 1 からも逸脱している、など)ならば Abstract に必ず書く。A も B も「真に」新規ならば A と B とは両者とも unknown = problem として同等に扱うべきである。が、例文では B = color Doppler 有用? は「真に新規」なわけではなく「なんちゃって新規」なので Abstract 第 1 行からは落とす。B が「なんちゃって新規」であると承知の上で、あえて明示したいなら「color Doppler がマス形成動脈瘤の診断にも有用かについてデータはない= unknown = problem」などと書いておけばよい。さて、B が「なんちゃって新規か?」「真に新規か?」に応じて Abstract へ出したり引込めたり、と、暗記までする必要はない。Abstract には重要なことだけを書くのだから、「なんちゃって」は非常に重要とまではいえない、と判断したから Abstract 第 1 行からは落とすだけのこと。「なんちゃって」でも、臨床に有用で、「なんちゃって」に気づいたこと自体が「新規」だと踏んだなら、もちろん Abstract へ堂々と出してよい。重要ならば第 1 行の unknown = problem へ堂々と出し、そうでないならば出さないでよく、という単純な事柄だ。ここでは、当該事項への著者の見定め力に依存する。B を Abstract 第 1 行に登場させるべきかどうか、current writer はそこを一瞬で判断する。初心のうちは「一瞬では」判断できないだろうが、そのように考えてみるように習慣づけることが上達への早道だ。